



TITLE:

獨逸經濟ノ軍國主義化

AUTHOR(S):

小川, 郷太郎

CITATION:

小川, 郷太郎. 獨逸經濟ノ軍國主義化. 經濟論叢 1915, 1(3): 459-464

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126892>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

經濟論叢

號三第

卷一第

論說

●染料藥品生産獎勵制度

●經濟學認識論ノ若干問題(一)

●營業利益課稅新案

●貧富問題(二)

雜錄

●官業整理ト財政

●南洋新占領地研究ノ一やつふ島研究

●享保年間ノ米價調節(二)

●收益遞減ノ法則ノ擴張

雜報

●獨逸ノ戰時經濟組織

●獨逸經濟ノ軍國主義化

●佛蘭西ノ農産擔保貸付法

●近時米國ニ於ケル婦人ノ職業ノ變遷

●獨身者ノ組合運動

●收穫ノ増減ト價格ノ變動

●すまゝと教授逝ク

法學博士 戸田 海市

商學士 ^{ドクトル} 左右田喜一郎

法學博士 神戸 正雄

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教 山本美越乃

法學士 本庄榮治郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戸 正雄

法學博士 小川 郷太郎

助教 河田 嗣郎

法學博士 河上 肇

法學博士 神戸 正雄

講師 高田 保馬

法學博士 河上 肇

獨逸經濟ノ軍國主義化

法學博士 小川 郷太郎

獨逸ハ、開戰以後、陸ニ海ニ、善ク戦ヒ、目
醒マシキ勦ヲシテ居ルガ、其經濟生活ニ於テモ

第一卷 (第三號 一四七) 四五九

亦、非常ニ日醒マシキ勦ヲシテ居ル。獨逸ノ軍隊ガ、軍國主義デ支配セラレテ居ル如クニ、獨逸ノ經濟生活モ軍國主義デ支配セラレテ居ル様ニ見ユル。

獨逸人ハ何事ヲスルモ先ツ案ヲ立テル、戰爭ヲセウト思ヘハ、軍人側デ、作戰計畫ヲ立テル、經濟學者行政官并ニ實業家側デ、戰時ノ經濟財政的施設案ヲ立テル、イザ戰爭ガ起ルト、軍人ハ其作戰計畫ニ從テ行動スルシ、政府ハ戰時ノ經濟財政的施設案ヲ實行スル、今回ノ戰爭ハ正シク、サウデアツタ、故ニ、開戰後、他ノ交戰國ノ經濟界デハ、イヤ支拂ガ出來ヌトカ、イヤ支拂猶豫令 (Moratorium) ヲ發スルトカデ、上ヲ下ヘト騷デ、狼狽シテ居ツタガ、其間ニ、獨逸ノ經濟界デハ、支拂猶豫令ガ發セラレルデナク、一糸亂レズデ進ンデ行ツタ。

併シ、獨逸ノ戰時經濟財政施設案ニモ多少違算ガアツタ、獨逸人ハ戰爭トイツテモ、露佛ヲ敵トスルカ、然ラサレハ英國ヲ敵トスルカト云フ位ニ考テ居ツタ、從テ戰爭トナツテモ、白耳義、

和蘭、すかんぢなびあ諸國、伊太利杯ハ中立デ、其處カラ、物ヲ輸入シ得ルコトヲ豫期シテ居ツタ。處デ、此豫期ハ、ガラリト外レタ、而シテ獨逸ハ敵國ヨリ取卷カレテ、八方塞リ、固ヨリ外國カラ供給ヲ受ケルコト出來ナクナツタ、獨逸ハ、白國ニ在ル物デ間ニ合ハセテ行クト云フ方針ヲ立テサルヲ得ナクナツタ。ソコデ、迅速ニ、此方針ニ依リテ又案ヲ立テ、急ニ應ジタ、將軍ガ、意外ノ所ニ敵ヲ見出し、忽チニ陣形ヲ變シテ之ニ向テ行ツタ様ノ概カアル。

今少シク、開戰後ニ行ハレタ經濟的應急策ヲ觀察シテ見ヤウ

(1) 開戰ノ時ニハ、穀物ハ尙刈シテ無カツタ(杜丁ハ戰場ニ赴イテ刈ルモノガナクナツタ、乃チ大々的ニ勞働仲介所ヲ起シ、戰爭ノ爲ニ職ヲ失ツタモノヲ其方ニ向ケルヤウニシタ。

(2) 戰爭カ初マルト金融カ杜絶スル虞ガアル、ソコデ貸付金庫 (Darlehenskasse) ヲ起シ、又無數ノ戰時信用銀行ヲ起シ、帝國銀行後援デドシドシ貸付ニ從ハシメタ。

(3) 國內ニ在ル原料品ハ外國ニ輸出セラルル虞ガアルカラ、開戰後間モナク、輸出禁止令、輸出制限令ガ布カレタ。又原料品カ國內ニ、ドレ丈アルカナ知ルノ必要ガアリ、又ソレヲ不

經濟的ニ消費セシメナイ必要ガアル爲ニ、戰爭原料品、會社ナルモノガ起サレタ、其會社ハ何處デモ原料品ノアル所デ買ヒ取ルノ特權并ニソレヲ軍需品製造工場ニ分配シテ行ク特權ヲ持テ居ル、此クシテ（金屬類、綿毛、皮革、護謄、ペンゼン等）物ガ影ヲ隱サズ一定ノ所ニ貯ヘラレルコトニナツタ。工業家組合ハ相會シテ、相談シ、戰時中止スルモノハ中止シ、又新シク始メルノモノハ、始メルコトトシタ。

(4) 食料品ニ關シテ又非常手段ヲ採ツタ、若イ牛ヲ屠ルコトヲ禁シ、酒精釀造ノ定量ヲ減シテ、其材料タル馬鈴薯ヲ飼料トシ又ハ人ノ食料ニ充テシメ、白麴包ニハライ麥ノ粉ヲ混シ、黑麴包ニハ馬鈴薯ノ粉ヲ混セシメタ、所謂戰爭麴包デアアル。併シ此等ノ應急策モ未タ十分デナカツタカラ、終ニハ國家ノ穀物專賣ヲ初メタ。

(5) 食料品ヤ軍需品ノ材料トナルモノハ、價格ガ騰貴シテ底止スル所ヲ知ラナカツタカラ、政府ハ穀物、馬鈴薯、銅、眞鍮、アルミニウム、石油等ニ就テ最高價格ヲ定メタ。

(6) 市町村ハ出征軍人ノ家族并ニ戰爭ノ爲ニ失職シタ人ヲ無償救助シテ遣ツタ。

以上ハ其重ナルモノデアアルガ、是レ丈見テモ、獨逸ノ經濟ガ開戰以來如何ニ變シテ居ルカト云フコトヲ想像シ得ル、平時ノ資本主義ノ色彩ハ、非常ニ薄クナツテ居ツテ、社會主義的色彩ガ非常ニ濃クナツテ居ル、ソコデ、余ハ之ヲ戰爭經濟

ト名ケタイ「Die」ハ獨逸ノ經濟ガ、軍國主義化シタモノデアアル換言スレハ、獨逸ノ經濟生活ハ、戰爭ノ爲ニ根本的ニ主義ヲ變シタノデアアルト云ツテ居ル。*

此ノ如ク獨逸ノ經濟ハ戰爭ノ爲ニ軍國主義化シタ、所デ戰爭ガ終テ平和ガ恢復セラレルヤウニナツタラドウナルカ、經濟生活ハ又元ノ通りニ復歸スルカ、是レガ一ノ大ナル問題デアアル。此問題ニ答ヘ、戰後モ獨逸經濟ハ軍國主義化シタ儘デ進テ行クモノデアアルト論シテ居ル、其立論カ面白イ、ソコデ少シク之ヲ紹介シテ見ヤウ。

戰爭ハ或ル意味ニ於テ永久的ニ宣言セラレタトモ云ヘル、ソレデ、平和ニナツタトテ、總テノ經濟力ヲ動員シテ置カネハナラヌ、言葉ヲ換ヘテイヘハ、國民ガ互ニ、軍隊ノ様ニ、堅ク續テ、一ノ經濟上ノ統一的組織ヲ作り、各員ハ、其地位ニ應シテ、有ル丈ノ能力ヲ振テ働ク、而モ自己ノ爲ニ働クノデナク、全體ノ爲ニ働ク、丁度壯丁カ兵役ノ義務ヲ盡スヤウニ、各人カ全體ノ組織體（國家）ニ對シ經濟上ノ義務ヲ盡ス、併シ國家ハ之ニ

* Die Militarisation unseres Wirtschaftslebens (Archiv für Sozialwissenschaft. u. Sozialpolitik Bd. 40. 3. Heft)

對シテ各人ノ世話ヲ見テヤル、斯クシテ、國家國民全體ハ、經濟上ノ力ヲ十二分ニ發揮スルコトカ出來ル、是レハ軍隊ヲ手本ニシタ經濟組織デアル、軍國主義ヲ經濟上ニ適用シタモノデアル、現今ニ行ハレ、又將來ニ行ハルモノデアル。

從來獨逸ハ、平和ノ時ニハ、食料品ヤ原料品ヲ外國ニ仰テ居ツタノデアルガ、今度ノ様ノ戰爭ニナルト、ソノ供給ガ絶エテ、非常ノ危險ニ陷ツタ、故ニ戰後ハ、再ヒ其危險ニ遇ハナイ様ニ、經濟政策ヲ立テネバナラス、ソレニハ、飼料ヤ穀物ヤ銅、石油、ベンゼン、護謄、綿毛、麻等ノ原料品ヲ澤山貯ヘテ置テ、仲々容易ニ、盡キヌ様ニシテ置カネハナラス、ソレハ私利ニ汲々タル商人デハ出來ナイカラ、國立ノ倉庫ヲ立テネバナラス、併シ此政策ヲ實行スルニハ、國家ハソレ等ノ品物ノ價格ヲ定メネハナルマイ、ソコデ或ハ穀物專賣ハ戰後引續キ其儘デ維持セラレルカモ知レナイ、或ハ少シ形ヲ變シ、其精神ヲ續テ行クカモ知レナイ。

次ニ財政上カラ見ルモ、戰時公債ノ利拂丈デ

モ巨額ノ收入ヲ必要トスル、別ニ好個ノ財源ガアルノデナイカラ、ドウシテモ、煙草、「シガー」、「シガレット」、火酒、石油、燐寸、電氣等ノ專賣ヲ初ムルヨリ外アルマイ、ソコデ財政上カラモ、國家ハ經濟生活ノ上ニ、干渉シテ來ルト謂ハネバナラス。

第二ニハ國家ハ國際交通商業ノ範圍ニ干渉シテ來ナケレハナルマイ、獨逸ハ、過去二三十年ノ間ニ世界到ル處ニ販路ヲ開拓シタ、處デ、今度ノ戰デ、商店ハ沒收セラレ、商人ハ立退命令ヲクヒ債權ハ失ハレタ、非常ノ損失デアル、戰後半和ハ恢復スルトシテモ、今日ノ敵國ヨリハ、矢張り敵視セラレルデアラウシ、今日ノ中立國ヨリハ、政治上經濟上ノ反對ヲ受ケルデアラウ、ソコデ、獨逸國民ヲシテ今後ハ、遠キ外國デ働キ、儲ケ、遠キ外國ヘ資本ヲ投下スルヤウノコトヲサセテハナラス、寧ロ緩急、事アツタ時ニ獨逸ノ武力ガ屈キ得ルト云フ様ナ國デ働キ、儲ケ、資本ヲ投下セシムル様ニサセテハナラス、換言スレハ獨逸ハソレ等ノ國ト閉鎖的商業區域ヲ形クテ子バナラ

ス、ソレ等ノ國ト云フノハ、埃匈、巴爾幹諸國、土耳其、西部露西亞デアル。又海外殖民地ニ於テハ中央亞弗利加ノ大部ヲトツテ仕舞テ東亞弗利加西南亞弗利加ノ獨領トラ結ブ、ソウスルト、其處デ、自ラ衛ルコトカ出來ヤウ、此ノ如クスルト輸入ノ關係ハ從來ヨリモ、非常ニ變シテ來ル、併シ將來再ヒ戰爭ガアツテモ、仲々容易ニ動搖ヲ受ケマイ。

以上述ヘルカ如クニシテ、戰爭デ、變化ヲ受ケタ經濟ハ戰後ニモ續クデアラウ。

此ノ如キ經濟生活ノ變化ハ根本的變化デアアル、ソレヲ明ニスルニハ、少シク戰前ノ經濟生活ノ主義ヲ觀察スル必要ガアル。

戰前ノ經濟生活ノ主義トナツデ居ツタモノハ何ト云ツテモ、自由主義デアツタ、資本主義デアツタ、各人ハ自分ノ經濟力ヲ自分勝手ニ振ヒ舞ハス、自由競爭ヲスル、最モ安イ市場デアツテ、最モ高イ市場デアルト斯ウ云フノデアツタ、此主義ハ英國カラ渡ツテ來タモノデ、獨逸ノ野ニ生エタ固有ノモノデハナイ。

戰爭ハ獨逸人ヲ覺醒シタ、獨逸人ハ全體デ、經濟上一國ヲ爲シテ居ル、個人ノ榮枯ハ全體ノ盛衰ト密接ニシテ離ルコトノ出來ナイモノデアアル、貧者モ富者モ仲間デ、互ニ相倚リ合ツテ居ル、各人ガ、各其分ヲ盡シ、共同ノ目的ニ向テ、一緒ニ働イテ行クトキニ、國家國民ハ初テ榮エテ行クノデアルト云フコト、ソレガ一ツ。又獨逸國ヲ榮エシムルノニハ、獨逸人ハ自己ノ力ニ依頼シ、自己ノ有スル物質ニ依頼セチハナラヌ、其力ヲ働カスニハ、全體ヲ通シテ組織ヲセチバナラヌ、獨逸ノ地ハ瘠セテ居ル、產物ハ十分デナイ、獨逸ノ富ハ、產物デアアルヨリモ寧ろ國民ノ力、組織ノ力、勞働ノ力デアアル、ト云フコトソレガ一ツ。斯クシテ、獨逸人ハ、全體デ、其アラン限リノ力ヲ傾注スルト云フ組織ヲ必要トスルコトニナツテ、茲ニ軍國主義ノ經濟組織ガ出來タ。

自由主義ノ經濟ト軍國主義ノ經濟トハ非常ニ異ツテ居ル、併シ獨逸ノ將來ハ、前者デナクテ後者デアアル。何故ト云フニ、第一、自由主義デハ、獨逸ノ孤立的地位ニ適應シテ、獨逸ヲ榮エシメテ

行クコト出來ヌ。獨逸ノ強ミデアル所ノ組織ノ力デ完全ノ發達ヲ期シテ行クト云フコトガ出來ヌ。第二ニ、自由主義ハ獨逸ノ因襲ヤ沿革ニ反スル。第三ニ自由主義ハ勞働者等ヲ驅リテ、高キ共同ノ目的ニ走ラシムルニ十分デナイ。

十九世紀ノ歴史ハ、自由主義カ勝テ、古來ノ束縛的經濟制度ガ打破セラレタ、コトヲ教テ居ル、然ルニ最近ノ傾向ヲ見ルト、之ニ例外ノモノカ勃々表ハレテ來タ、勞働者保護、勞働者保險……總テ國家ノ行ヘル社會政策ハ、夫レデアル、自由貿易ヨリ保護貿易ニ移ツタコトモソレデアル、勞働者カ勞働組合ヲ作り、資本家ガ「カルテツル」ヲ作り、消費者カ消費組合、建築組合ヲ作ルナドモ、亦ソレデアル。自由競爭主義ハ元則トシテ認メラレテ居リ乍ラ、經濟生活ノ内容ハ餘程之ニ遠カリツツアツタ、是ハ寧ロ發達ノ傾向ヲ示シテ居ルモノト見ラレル、故ニ戰後經濟生活ガ、軍國主義化スルト云ツテモ、非常ノ高飛ヒデハナイ。此ク論シテ來ルト、自由主義資本主義ノ經濟生活ハ、昔ノ經濟生活ヨリ、新經濟生活ニ移

ル、過渡的時代ノモノデアツタト云フコトガ出來ル。

併シ新經濟制度ノ下ニ於テハ、私企業ヲ全然排除スルモノデナイ、困難ヲ排シテ新シイ有利ノ事業ヲ初メ新シイ技術ノ進歩ヲ促シテ以テ經濟界ノ水先案内者タルハ、私企業家ニ待タズバナラス。民業ヲ廢シテ、官業若クハ半官業トスルノハ、民業ガ時世ノ大要求ニ應ジ得ナイ場合、若クハ民業カ獨占ノ地位ヲ得タ場合ニ限ルノデア

ル。新經濟生活ノ舊經濟生活ト異ル根本ノ差ハ、心理的動機デアル、舊經濟生活ニ於テハ、何カ儲ケヤウ (Gewinn) ト云フ考カラ出發シタノデア

ル、新經濟生活ニ於テハ、何カ務メヤウ盡シヤウ (Leistung) ト云フ考カラ出發スルノデアアル、場合ニヨリテハ儲ケヤウト云フ様ナコトヲ少シモ考ヘナイ。

此ノ如キ新經濟生活ノアラハレテ來ルト云フコトハ、資本主義的經濟制度ノ寂滅ニ外ナラス、獨逸人ノ特色ハ、團體生活デアル、個人ハ「全體

ノ爲ニシ、全體ハ又個人ノ爲ニス」(“Einer für alle, alle für einen”)是ハ古ヨリ國家組織ノ目標トシテ歌ハレタ原則デアル、二十世紀ノ新獨逸ハ此原則ニ歸ラントシテ居ルノデアル。

以上ハ Jaffe ノ考ノ大要デアル、軍國主義化ト云フモノノ、基礎ハ德義ニ在ル、經濟生活迄ガ、德義、義務ト云フ觀念ノ上ニ立テラレルカ知ラシ、一寸疑ハシイ、併シ獨逸人ハ、組織力ニ富シデ居ル、團體的行動ヲスル様ニ出來テ居ル、戦後ノ經濟ハ、此國民性カラシテ、ドウ變シテ行クカモ知レヌ。慥ニ見モノデアル。